



2) と平泉文化以前にここに文化や風土に源流となるものが確かに存在しているのですが、まだまだ市民に知られていません。北上しらゆり大使に話してみたところ、埋もれさせるのはもったいない。もっとPRするべきだという意見を頂きました。

加藤さん：以前作った展勝地の観光PR用DVDも活用して若い人たちや子供たちにも興味をもってもらいたいと思います。

市長：民俗村の管轄を教育委員会から商工部に移す予定です。それに併せて社会教育施設（博物館や鬼の館）についても再編を検討したいと考えます。訪れる人たちによりアピールしていきたいですね。

千田さん：昨年、市立博物館の企画展で展示されたパネル等の資料は一般の人たちが目にする機会を増やすためにも常設してはいかがでしょうか。

市長：たしかに国見山廃寺の全体像を知ることのできる施設というのはありませんね。もしかしたら今後は博物館を国見山廃寺に特化したものにしていくかもしれません。

千田さん：国見山廃寺という言葉が世間に浸透していないこともありますよね。

市長：五重塔再建の論争が巻き起これば、それがきっかけとなって国見山廃寺というテーマが盛り上がるのではないのでしょうか。そのためにも今後の取り組みに期待します。

（注1）国見山廃寺・北上市稲瀬町内門岡地区にあった、今から1,000年ほど前の平安時代中頃に栄えた山岳寺院で、大規模なお堂や塔の跡が発見されています。伝承によれば、700を超える堂塔、36の僧坊をもつ大寺院であったとされています。また「定額寺【じょうがくじ】（国営の寺に準ずる位置付けの私営の寺）」として歴史書にみえる「陸奥国の極楽寺」ではないかとも考えられています。平泉が繁栄を迎える150年以上前に栄えた、北東北の中心的な寺院だったとみられます。

（注2）かわらけの発掘・国見山廃寺跡で1980年に出土した「手づくねかわらけ」が、最近の再検討により、平泉でこの器を用いる京都独特の儀式を導入し始めた頃のものであることがわかりました。平泉に導入されてから時を経ずして国見山廃寺において同様の儀式が行われていたことは、奥州藤原氏が国見山廃寺を重視していた証拠だと分析されています。見つかった「手づくねかわらけ」は直径16センチほどの素焼きのお皿で、手びねりにより作られています。

## （2）その他

平野さん：「祭り」とは心躍るものというのがベースにあります。みちのく芸能まつ



りは観るのが主体となっていますが、我々もかつて学校で踊りを教わって今でも覚えていますので、例えば参加者が鬼の面をかぶって踊れるなど市民がもっと踊りに参加できる鬼の祭りを企画してはどうでしょうか。

市長：芸能まつりは市の内部で企画しているのではなく、芸能まつり実行委員会が出された意見に基づき作られるため、大きく方向性を変えるのは難しいと思います。来年度（平成27年度）の開催に向けて見直しを図りますが、できるだけ議論の中身をオープンにして、市民との意見交換の場も設けるなど市民のニーズを取り入れて話し合いを進めていきます。

平野さん：展勝地の桜まつりについてですが、並木道に沿ってライトアップしてはどうでしょうか。弘前などはライトアップされた夜景が美しく観光客に対しインパクトがあります。

それとさくらまつり時の渋滞には毎年閉口しています。今後も多くの誘客を図るためにも渋滞を解消する方法はないでしょうか。例えば展勝地の前の道路を臨時に3車線化する方法や、町中に駐車場を設けて、展勝地方面への個人の車の進入を規制するというやり方が考えられると思います。

市長：展勝地さくらまつりも来年度から実行委員会方式にして、全体を俯瞰したコーディネートにしたいと考えています。例えば男山から街並みを見下ろした時にどんな感じになるかなど展勝地100周年を見据えたものを作っていくつもりです。

加藤さん：ここ数年、大雨等の自然災害が続いています。北海道では自衛官のOBを採用して防災対策に取り組んでいるようです。北上市でも同様の取り組みをしてはどうでしょうか。

市長：北上市にも自衛官OBで組織する団体があるようなので、今後意見交換を行うのもよいかもしれませんね。

加藤さん：地域づくりに関する業務は各地域から臨時職員を雇用し、市の仕事を経験してもらったのちに各地域に戻ってもらい、その経験を生かしてもらってはどうか。

市長：現在も各地区の交流センターは地域の方を採用して事務を行ってもらっています。

